

## ヘルスリサーチニュース

- 目次**
- 平成11年度研究助成案件等募集のお知らせ(p1) / 平成11年度事業計画・予算等を決定(p2) / 研究等助成受領成果報告 - 研究者派遣助成2編・研究助成1編(p6) / 頭蓋底外科手術の費用効率性と医療供給体制の評価について(p6) / 無作為化比較試験50年の到達点 - 科学的かつ倫理的な臨床試験の実施目指す(p7) / 寄生虫症防圧とプライマリーヘルスケア(PHC)の統合プロジェクトに関する試行研究(p9) / 推薦図書(p10) / 1999年度日本、海外におけるヘルスリサーチ関連学会・研究会開催案内(p11)

### 第8回(平成11年度)研究助成案件等募集のご案内

第8回研究助成案件等の募集を下記の通り行いますので、ご案内申し上げます。  
詳細につきましては、各大学、研究機関などに送付しております募集案内書、案内ポスタ - や募集広告をご覧ください。

**研究対象:** 保健医療福祉分野の政策あるいはこれらサービスの開発・応用・評価に資するヘルスリサーチ領域の研究

**応募規定:**

- 国際共同研究 『国際的観点から実施する共同研究』  
1テーマ当たり500万円以内 9件程度
- 海外派遣助成 『海外における学会、研究会等への参加』  
短期(1ヶ月程度) 1人当たり 70万円以内  
中期(6ヶ月程度) 1人当たり 200万円以内  
計14人程度
- 研究者招聘助成 『講演会、学会等への参加』  
短期(1ヶ月程度) 1人当たり 100万円以内  
中期(6ヶ月程度) 1人当たり 250万円以内  
計10人程度

**応募締切:**

平成11年7月31日(当日消印有効)

**助成決定:**

平成11年10月中旬

**応募方法:**

本財団所定の申請書式によりご応募下さい。

間違いを避ける為に募集要綱をご希望の方は、必要事項を記入の上、ファックス、文書又はE-mailでお願いいたします。

**【必要事項】** 申請書の種類(3種類)  
発送先の住所、名称、氏名 電話番号

### ヘルスリサーチ の研究例示

#### 欧米諸国との比較における 日本の医療内容

- 医療の結果の評価(OUTCOME)に関する研究
- 同一疾患の患者が日本と欧米で受ける医療の差に関する研究

**1** 制度・政策に関連のある研究調査  
定額払い制(人頭制)における医療サービスの質の確保に関するシステム研究  
薬剤使用と保健医療サービスの生産性に関する比較研究  
少子・高齢社会における就労人口の確保と保健医療の経済性評価

**2** 医療経済学的な研究調査  
産業の品質管理手法の保健医療経営への適用可能性 日米比較研究  
医療成績からみた定額払い制の費用対効果 国際共同研究  
技術革新の経済分析: 心血管系治療薬の進歩の評価

**3** 保健医療サービスに関する調査研究  
「エビデンス・ベースド・メディシン」へのアプローチとデータベース構築  
保健医療サービスにおける患者満足度とその要因  
保健医療における情報の非対称性を補完するシステム 保険者の役割可能性

**4** 医療資源の開発に関する研究  
がん告知における患者・家族の精神的ケアのシステム研究  
被験者による治験忌避の主要な要因  
医師の卒前・卒後教育システム EUにおける医師資格の国際化の進展

**5** 社会科学的側面の調査研究  
有権者の少子・高齢化と保健医療政策への影響  
患者一部負担が患者の受診行動に及ぼす影響  
受診者の病識・薬識が医療サービスの効率に与える影響 健康教育の比較

\* 応募要綱送付依頼やお問い合わせは.....

〒163-0461 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル  
財団法人 ファイザ - ヘルスリサーチ振興財団 事務局  
電話: 03-3344-7552 FAX: 03-3344-4712  
E-mail: zaidan@pfizer.co.jp  
http://www.pfizer.co.jp/phrf

## 第14回理事会・評議員会を開催

# 平成11年度事業計画・予算等を決定

東京都新宿区の新宿三井ビルで、3月24日(水)に第14回評議員会が、3月29日(月)に第14回理事会が開催され、平成11年度の当財団の事業計画、収支予算、その他が審議、承認されました。

承認された平成11年度事業計画及び年間予定は4ページ以下の通りです。

また、平成11年度は理事・監事・評議員・選考委員の改選期であり、それぞれ以下の通り承認されました。

この評議員会、理事会の両席上において、垣東理事長は、特に退任される評議員・理事の財団発足以来の支援に感謝の意を述べるとともに、近年の研究助成に対する応募、フォーラムの一般演題への応募において、医学系のみならず社会科学系が多数を占めてきている現状を紹介し、こうした傾向を反映した平成11年度からの新体制の下で、気持ちも新たにヘルスリサーチ研究の振興に努めていきたいと抱負を述べるとともに、関係者の支援をお願いしました。

### 理事・監事

(敬称略)

理事長	垣東 徹(再任)	ファイザー製薬(株)特別顧問
理事	青木 國雄(再任)	愛知県がんセンター名誉総長
理事	荒井 蝶子(再任)	国際医療福祉大学看護学科長
理事	大谷 藤郎(再任)	(財)藤楓協会理事長
理事	開原 成允(再任)	国立大蔵病院病院長
理事	水野 肇(再任)	医事評論家
理事	黒川 清(新任)	東海大学医学部長
理事	幸田 正孝(新任)	(社)全国社会保険協会連合会理事長
理事	高久 史麿(新任)	自治医科大学学長
理事	宮澤 健一(新任)	一橋大学名誉教授
理事	山崎 幹夫(新任)	千葉大学名誉教授
常務理事	岩崎 博充(再任)	ファイザー製薬(株)専務取締役
理事	小川 諭(新任)	ファイザー製薬(株)取締役
監事	北郷 勲夫(再任)	国民健康保険中央会理事長
監事	片山 隆一(新任)	公認会計士(センチュリー監査法人)

### (退任理事・監事)

理事	大和田 潔	前社会保険審査会委員長
理事	岡本 道雄	神戸市立中央市民病院名誉院長
理事	加藤 一郎	(学)成城学園名誉学園長
理事	近藤 雅臣	大阪大学名誉教授
理事	中尾 喜久	自治医科大学名誉学長
常務理事	瀬尾 隆	ファイザー製薬(株)常勤監査役
監事	重田 修	公認会計士

## 評議員

(敬称略)

岩崎 栄 (再任)	日本医科大学常任理事
岩田 弘敏 (再任)	岐阜大学医学部衛生学教授
小幡 裕 (再任)	東京女子医科大学名誉教授
近藤 健文 (再任)	慶應義塾大学医学部衛生学 公衆衛生学教室教授
高橋 則行 (再任)	日本薬剤師会副会長
本間 光夫 (再任)	慶應義塾大学医学部名誉教授
町田 豊平 (再任)	東京慈恵会医科大学名誉教授
三富 利夫 (再任)	東海大学名誉教授
鶴田 忠彦 (新任)	一橋大学大学院経済学研究科教授
花野 学 (新任)	日本大学薬学部教授

## (退任評議員)

市岡 揚一郎	日本経済新聞社論説委員会常任顧問
大國 真彦	日本大学名誉教授
松下 秀鶴	静岡県環境衛生科学研究所顧問
山崎 幹夫	千葉大学名誉教授

## 選考委員

(敬称略)

小野寺 伸夫 (再任)	国際学院埼玉短期大学教授
開原 成允 (再任)	国立大蔵病院病院長
北沢 式文 (再任)	前(社)日本病院薬剤師会会長
近藤 健文 (再任)	慶應義塾大学医学部衛生学 公衆衛生学教室教授
高原 亮治 (再任)	厚生省大臣官房厚生科学課課長
湯澤 布矢子 (再任)	宮城大学看護学部長
鶴田 忠彦 (新任)	一橋大学大学院経済学研究科教授

## 任期

理事・監事、評議員及び選考委員とも、平成11年4月1日から平成13年3月31日迄の2年間。

# 平成 11 年度事業計画

平成 11 年度の事業活動計画は、平成 10 年度に引き続き、特に保健医療制度・政策等に関する調査研究に焦点を合わせた内容としています。具体的内容は以下のとおりです。

## 平成 11 年度事業概要

ヘルスリサーチに関する実態調査	諸外国におけるヘルスリサーチに関する研究専門雑誌や研究会についての情報を収集し、日本のヘルスリサーチ研究者に参考情報を提供する。	
研究等助成	1. 国際共同研究 保健医療福祉分野の政策あるいはこれらサービスの開発・応用・評価に資する研究テーマについて国際的な観点から実施する共同研究への助成。	1 件 500 万円以内 / 9 件程度
	2. 日本人研究者の海外派遣 保健医療福祉分野の政策あるいはこれらサービスの開発・応用・評価に資する研究テーマについて取り組む日本人研究者が海外で開催されるヘルスリサーチ関連学会、会議等への参加または国際共同研究等実施のための渡航助成。	
	A. 短期派遣(1ヶ月程度)	1 件 70 万円以内 / 7 件程度
	B. 中期派遣(6ヶ月程度)	1 件 200 万円以内 / 7 件程度
	3. 外国人研究者の招聘 保健医療福祉分野の政策あるいはこれらサービスの開発・応用・評価に資する研究テーマについて取り組んでいる将来有望なヘルスリサーチ領域の研究者の招聘助成。	
	A. 短期招聘(1ヶ月程度)	1 件 100 万円以内 / 8 件程度
B. 中期招聘(6ヶ月程度)	1 件 250 万円以内 / 2 件程度	
財団機関誌の刊行 (ヘルスリサーチニュース)	事業及びその成果を情報として提供し、研究の推進・啓蒙を図る。	年 4 回
第 6 回 ヘルスリサーチフォーラム	一般公募演題の発表、平成 9 年度実施の国際共同研究の成果発表及び討論と平成 11 年度応募助成案件の選考結果・経過の説明を行う。又、その内容を小冊子としてまとめ、配布する。	開催日： 11 月 6 日(土) 会場： ザ・フォーラム

### ヘルスシステム研究会活動の一時凍結

本研究会を設立するため、平成 10 年 4 月に 5 人の研究者・専門家で運営委員会を組織して、3 回の会合を開催し、当財団の活動における位置づけと役割について検討したが、次の理由により、本研究会の設置計画を当面凍結する。

理由：小淵内閣の発足と共にわが国の社会経済構造論議が活発となり、一部委員が政府審議会において、重要かつ多忙な業務を担われるようになり、運営委員会の開催も困難となり、研究会設置にむけての十分な検討を行うことができない。

平成 11 年度 予定表

	事業年度	平成 10 年度			平成 11 年度											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
運営会議	理事会 評議員会	平成 11 年度 事業計画・予算 3月29日(月)第14回 3月24日(水)第14回			平成 10 年度事業報告・決算報告 新年度現況報告 5月28日(金)第15回 5月28日(金)第15回 監事決算監査								平成 12 年度 事業計画・予算 3月 第16回 3月 第16回			
事業関連	ヘルスリサーチ研究会 選考委員会	2月19日(金) 第19回新年度助成方針			選考方針・作業分担 8月13日(金) 第20回 最終選考 9月18日(土) 第21回											
助成事業他	公募 選考 選考結果 第6回ヘルスリサーチフォーラム ヘルスリサーチニュース発行	応募要綱作成 案内・広告			公募期間 (配布・紹介) → 最終公募とりまとめ 公募現況報告 → 選考作業 → 正式発表・通知 一般演題公募 → 参加者募集 → 11/6(土) 小冊子刊行 平成 12 年度 応募要綱作成											
管理業務	(一般業務) 平成 11 年度予算・事業計画作成 平成 10 年度決算処理 厚生省報告(予算・決算書) 助成金支払い 平成 12 年度予算・事業計画作成	→			→								11/1 ~ →			

平成 10 年度寄付金一覧 並びに ご寄付のお願い

平成 10 年度中に次のとおり寄付金を頂きました。(平成 11 年 3 月 31 日現在 : 敬称略)  
慎んでお礼申し上げます。

基本財産		運用財産	
平成 10 年 4 月	日本医薬情報センター 200,000 円	平成 10 年 10 月	ファイザー製薬(株) 60,000,000 円
平成 11 年 2 月	垣東 徹 1,000,000 円		
合 計 1,200,000 円		合 計 60,000,000 円	

当財団は、今後とも、助成事業、情報提供活動を通じて、より幅広くヘルスリサーチの振興に寄与して参る所存ですが、そのためには更なる事業基盤の充実が必要であります。

こうした趣旨をより多くの皆さまにご理解をいただき、当財団へのご寄付について格別のご高配を賜りますようお願いいたします。なお当財団は厚生省の認定による「特定公益増進法人」ですので、寄付金については一定の免税措置が講じられます。

詳細は当財団事務局(電話: 03-3344-7552)までお問い合わせください。

# 研究等助成受領成果報告

- 研究者派遣助成 2 編、研究助成 1 編 -

平成 9 年度 中期 派遣

## 頭蓋底外科手術の費用効率性と医療供給体制の評価について

派遣期間 1998 年 4 月 6 日 ~ 1998 年 8 月 2 日

派遣者 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科学教室・専任講師

井上 泰宏

### はじめに

近年の頭蓋底外科手術の進歩により、解剖学的に手術的治療が困難であるとされてきた病変へのアプローチが可能となっている。しかしながら、手術に関わる費用、術後の生命予後、髄液漏などの後遺症等から、手術の適応およびその医療経済学的効果については更に検討していく必要がある。そのひとつの方法として、患者のQOLを加味した上での頭蓋底外科手術の費用効率性についての評価を行うとともに、「今後どのような設備と機器とスタッフをもった、どのような施設で医療提供を行うべきか。」「そのような施設は国内で、どの程度必要か。」等といった、技術集積性とaccessibilityの両面から頭蓋底外科手術の医療供給体制についても検討する目的で、今回海外における頭蓋底外科の実際について研究を行った。

### 対象と方法

対象は今回、訪問したHouse Ear Clinic およびGruppo Otologico で手術を施行した小脳橋角部腫瘍症例である。これらの症例について、特に手術に対する費用、手術時間、手術に要するスタッフの数、合併症の有無、入院期間を中心に検討した。

### 結果

#### 1) House Ear Clinic

House Ear Clinic はアメリカ西海岸における耳科手術の中心的施設であり、年間約300例の小脳橋角部腫瘍の手術を行っている（週平均6例、1日3例手術することもある）。聴神経腫瘍の手術はその大部分を占めているが、その費用は約50,000ドル（約600万円）であり、その半分がホスピタルフィーにあたる。手術時間は約5時間であり、医師3名、看護婦2名の他、オーディオロジスト1名が手術に従事する。入院期間は日本に比較して非常に短く、原則的に5日間となっている。アメリカの健康保険機構でも、小脳橋角部腫瘍の手術費用は、ほとんど認められるということで、これらの手術を数多く行うことによって、病院が経済的に不利になることはないということであった。合併症に関しても、髄膜炎や髄液漏の発生率は1%ということであり、合併症によって入院期間が長くなる症例もほとんどない。

#### 2) Gruppo Otologico

Gruppo Otologico は、イタリアにある耳科手術の中心的施設で、ヨーロッパ全土から患者が集まっており、年間約200例の小脳橋角部腫瘍の手術を行っている（週平均5例、1日2例手術することもある）。イタリアでは日本と同じ様な国の健康保険制度があり、それを利用すれば、ほぼ無料で手術が受けられることが可能であるが、より質の高い医療を求めて自費による診療を受ける患者も多く、Gruppo Otologicoではほとんどの患者が自費で手術を受けていた。自費診療の利点は、手術の執刀医師を患者が選べることと、入院までの待ち時間が短いという点にある。聴神経腫瘍の手術の費用は約2,000,000リラ（約160万円）であるが、その他にホスピタルフィーにあたる費用が300,000-450,000リラ（24-56万円）さらに個室代として60,000-200,000リラ（4-16万円）が必要となる。手術時間は約6時間であり、医師3名、看護婦2名が手術に従事する。入院期間は、House Ear Clinicより1日短く、原則的に4日間となっている。

## 考察

聴神経腫瘍の手術費用は、我が国の診療報酬点数表では頭蓋内腫瘍摘出術（松果体部腫瘍以外のもの）として70,000点（70万円）の請求ができる。一般に、我が国の診療報酬制度においては、医師の技術に対する評価が極めて低いことが以前より指摘されているが、聴神経腫瘍の手術費用についても欧米の2施設に比較すると50%以下の設定である。一方、当院における手術時間は10-12時間であり、従事する医師は4名以上、看護婦が2名以上であることを考慮すると、当科の聴神経腫瘍手術は診療者側の費用効率という点においては、より悪い状況にあると思われる。この解決法の一つとして、小脳橋角部腫瘍を扱う施設がある程度限定して多くの患者を集中させ、手術手技に熟練した医療チームが少人数かつ短時間で手術をこなしていくようなシステムを作り、手術の効率化を図るという方法が考えられる。聴神経腫瘍に限れば、その発生頻度は10万人に1人とも言われており、多くの医療施設が等しく手術を行える必要はない疾患であろうことから、施設の限定化は不可能ではないと考えられる。一方、合併症に関しては現在我々の施設においても数%であり、欧米の各施設と比較しても大きな違いはないと考えられるが、熟練した手術チームの編成により、さらに減少させることも可能であろう。他方、これら以外に手術費用に影響している要因として、術後の入院期間の違いが挙げられるように思われる。実際に欧米では、通常4-5日間である聴神経腫瘍術後の入院期間が、現在、当科では術後約3週間の入院となっている。これは、術後の合併症の治療のためというよりは、術後の患者が帰宅後に、ある程度自立した生活ができる自信がつくまでの準備期間になっている場合が多い。確かに、欧米人と日本人とを比較すると、術後の体力の回復過程に差があるのも事実ではあるが、入院に対する患者の考え方にも大きな違いがある。近年、我が国でも診療報酬点数上、必要以上の入院期間を減少させるべく、長期入院ほど不利になる様な設定がなされているが、これは診療者側の収益に対して不利になる仕組であって、患者にとっては入院費に限定して考えた場合、あまり不利にはならないと思われる。逆に、患者は入院が長期になれば、健康保険や社会保障、税金面で、むしろ保償を受けやすくなる場合もあり、診療者側の費用効率の向上と患者の利益とが、相反する立場になる可能性がある。この点で、現行の入院期間に対する診療報酬による制約は、患者の意識の変化や生命保険制度の改革が伴わない限り、我が国における聴神経腫瘍を含む頭蓋底外科術後の入院期間の短縮には必ずしも有効ではないと考えられる。このことから、我が国において頭蓋底外科のような複雑な手術を施行する場合、術後合併症を症じる危険性の少ない熟練した医療チームの編成が可能であり、かつ手術に対して時間的、人的な余裕のある限られた施設でしか行えなくなっているのが現状と思われる。その意味では、現時点でも診療者側の経済的要因という消極的な要素によって、ある程度の施設の限定化が行われていると考えられるが、ますます制約が厳しくなる診療報酬制度に経済的基盤を持つ限り、我が国の頭蓋底外科手術の将来は極めて不安定であるように思われた。

平成10年度短期派遣

## ランダム化比較試験 50年の到達点

### 科学的かつ倫理的な臨床試験の実施目指す

派遣期間 1998年10月21日～1998年11月1日

派遣者 日経BP社日経メディカル編集部

北澤 京子

肺結核に対するストレプトマイシンの有効性に関する臨床試験の結果が、英国医学雑誌（British Medical Journal：BMJ）に掲載されて今年でちょうど50年。それを記念して、10月29日～30日の2日間、英国ロンドンで「臨床試験50年 過去、現在そして未来」と題した会議が開かれた。世界各国から約300人が集まり、科学的かつ倫理的な臨床試験を実施するための課題が熱心に議論された。

ストレプトマイシンは、第二次世界大戦中の1943年、米国ラトガー大学院の博士課程学生により単離された。肺結核治療に対するストレプトマイシンの有効性を調べるための臨床試験はその3年後、終戦間もない146年に計画された。日本では闇市で、サッカリンやペニシリンと並んでストレプトマイシンが取引されていたちょうどその頃、英国政府は32万ドルを投じて、臨床試験のためにストレプトマイシン50kgを米国から輸入していたことになる。

英国インペリアルカレッジ科学・技術・医学歴史センターの歴史学者、アラン・ヨシオカ氏は、この「ストレプトマイシン試験」について発表した。試験の実施主体は、英国医学研究会議（Medical Research Council：MRC）。MRCは現在、臨床試験の公的な実施主体としては英国最大であり、質の高い臨床試験の実施に努めていることで知られる（表1）。

表1 MRCが実施した臨床試験の歴史

1948	ストレプトマイシン試験(肺結核に対する治療効果)	BMJ ii : 769-782, 1948.
1951	百日咳ワクチン試験	BMJ 1 : 1463-1471, 1951.
1963	初の急性白血病試験(ステロイドによる治療)	BMJ 1 : 7-14, 1963.
1973	初の固形癌試験(小細胞型気管支癌に対する初期治療としての手術および放射線治療の効果)	Lancet ii : 63-65, 1973.
1985	軽度から中等度の高血圧治療試験	BMJ-Clin-Res-Ed291 : 97-104, 1985.
1988	心臓発作に関するISIS-2	Lancet ii : 349-360, 1988.
1990	腰痛試験(カイロプラクティックと外来治療との比較)	BMJ 300 : 1431-1437, 1990
1991	神経管欠損症(neural tube defect)試験	Lancet 338 : 131-137, 1991.
1994	コンコルド試験(HIV感染者に対するジドブシンの効果)	Lancet 343 : 971-81, 1994.
1998	2型糖尿病の治療に関するUKPDS	Lancet 352 : 854-65, 1998.

### ランダム割付けによる初の臨床試験

「ストレプトマイシン試験」では初めて、結果の偏りをできるだけ少なくするために、被験者を他の条件を同一にした上でストレプトマイシン群と対照群とに無作為に割り付けるといった方法が採用された。このランダム化比較試験(randomized controlled trial：RCT)は、現在もっともエビデンス(証明度)の高い結果を生む臨床試験の方法として定着している。この試験では、対照群に比較してストレプトマイシン群の成績がよいことが明確に示された。

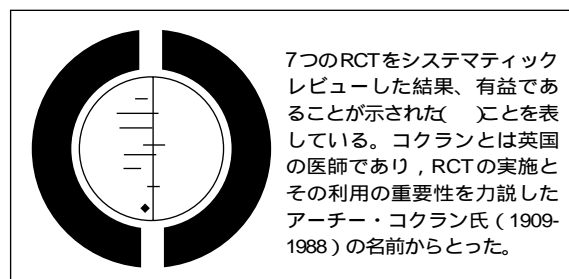
英国コクランセンターのスティーブ・マクドナルド氏は、世界各国の主な医学雑誌にRCT論文がどれだけ掲載されているかを数えた。48年から97年までに掲載されたRCT論文は、18誌合計で計5503本。BMJでは計2016本にのぼっていた(言語の違いのため、日本の雑誌については調べられていない)。同氏によると、RCT論文数が多かったのは80年代までで、90年代に入ってから減少傾向にあるという。その理由としてマクドナルド氏は、「それぞれのRCTが大規模化していること」を挙げた。小規模のRCTを実施しても、それだけではエビデンスがさほど高くないことが、世界的に認知されつつあるということだ。

だとすれば、個々のRCTをまとめることにより、より確実なことが言えるのではないか。そのような考えから生まれたのがシステマティックレビュー(systematic review)だ。

システマティックレビューは、早産の恐れのある妊婦に対する副腎皮質ホルモンの未熟児合併症減少効果を検証することから始まった。この問題については、72年に最初のRCTが発表されて以来、91年までに7件のRCTが行われていた。7本の論文を系統的にレビューした結果、副腎皮質ホルモン治療により、未熟児合併症で死亡するリスクは、30%ないし50%減っていることが判明した。

この先駆的な研究を行ったイアン・チャーマー氏は、現在は英国コクランセンター所長を務める。「コクラン共同計画」(図1)は、医学の様々な領域で、世界中で行われているRCTのシステマティックレビューを行い、その結果をCD-ROMやインターネットといった電子媒体で公表するという国際的なプロジェクトだ。その支援を行うコクランセンターは、英国の他、現在世界中に計15カ所。日本にはセンターはないが、非公式なネットワークができています。

図1 コクラン共同計画のロゴ



### パブリケーション・バイアスをなくす

今回の会議でチャーマー氏は、臨床試験の偏りをできるだけ少なくするために、「常にアップデートされた情報に接することと、臨床試験の登録制を進めること」の2点を強調した。証明したい事柄に対して、肯定的な結果になった場合は論文の形で公表されるが、否定的な結果になった場合はうやむやになりやすいという現象は、パブリケーション・バイアスとしてよく知られている。



この偏りをなくすために、すべての臨床試験はあらかじめ登録しておくべきだというチャーマー氏が示した方向性は、今後、大きな影響力を持つだろう。特に製薬企業の場合、自社開発の薬の臨床試験の結果がよくなかった場合でも、それを隠すことができなくなる。英国グラクソ・ウェルカム社は、製薬企業の先陣を切る形で、同社が今後行うすべての臨床試験を登録し、インターネット上で公表していく方針を明らかにした。

### 臨床試験はメガトライアルへ

全体の議論を締めくくる意味で、英国臨床試験サービスユニット医学統計学及び疫学教授のリチャード・ピート氏は、「世界的規模のメタアナリシスとメガトライアル」と題して講演した。

ピート氏は、「これまでの50年間で、我々はランダム化により、実際には有効性がないのにあるかのごとく見える“偽陽性”を否定することに成功した。しかしこれからは、大規模化を進めることにより、わずかな差ではあっても有効性があるのに、それを検出できないという“偽陰性”を否定することをめざすべきだ。臨床試験計画書（プロトコール）を単純にするかわりに対象症例数を増やすことにより、RCTの大規模化（メガトライアル）が可能になる」と語った。

例えばアスピリンの急性心筋梗塞予防効果を調べた「ISIS（Second International Study of Infarct Survival）2」では、対象症例数が1万7187人と多かったおかげで、2%の差が検出され、アスピリンの有効性が証明できた。

### 問われるわが国の臨床試験実施体制

メガトライアルへの流れは今後、一層顕著になってくるだろう。その際に問われるのは、きちんとしたプロトコールにのっとった臨床試験を正確に行うことができるか否かだ。第三者によるプロトコールの検証がないままに恣意的に臨床試験を行っても、そこから得られたデータは科学的な意味を持たない。

わが国では新薬開発時の臨床試験（治験）に関連して、98年度からの新GCP完全実施以降、治験が行いにくくなっているのが現状だ。きちんとした臨床試験の実施がおぼつかないということになれば、世界の医学研究から取り残されることにもなりかねない。

平成9年度国際共同研究

## 寄生虫症防圧とプライマリーヘルスケア(PHC)の統合プロジェクトに関する試行研究

研究期間 1997年10月1日～1998年10月31日

代表研究者 東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学教室・主任教授

共同研究者 山形大学医学部免疫学・寄生虫学講座・教授

アスンシオン大学保健科学研究所・主任研究員

小早川 隆敏

仙道 富士郎

グラシエラ ルソマンド

寄生虫症防圧とprimary health care (PHC)を統合するための試行研究を南米パラグアイ国において、下記の2点に試行の焦点を絞り行った。

- 1) 地域保健システムの利用によるシャガス病防圧の試み。
- 2) 寄生虫症教育を介したPHC展開への試行。

1) においては地方保健システムを利用し、妊婦の血液検査によりシャガス病感染の有無を確認し、感染陽性の妊婦の出産を地域保健システムの管理下に行った。陽性妊婦から生まれた新生児の7%にシャガス病感染が認められたが、これは従来の報告より高率であり、保健衛生上重要な問題であることが判明した。

2) においては、JICAプロジェクトの中でアンケート調査と寄生虫卵検査により、対象地における重要寄生虫症をアメリカ鉤虫症と同定し、その予防に向けた学童を対象とした衛生教育を展開した。

以上の試行の結果、住民の寄生虫症理解を高めるための啓蒙活動が寄生虫症防圧に重要であることが示唆された。しかし、PHCの基本概念の一つである住民参加を得るには多くの問題が残されていることも示唆され、今後の課題と考えられる。



## マネジドケア医療革命

民活重視の医療保険改革

著者：西田在賢

内容：第1章 いま何故、マネジドケアなのか  
第2章 マネジドケアの出現  
第3章 マネジドケアの活動  
第4章 マネジドケアは万能か  
第5章 マネジドケアは日本の医療を変えられるか

発行所：日本経済新聞社

東京都千代田区大手町1-9-5 〒100-8066

電話(03)3270-0251

定価：本体2,000円+税

著者  
略歴

79年 東京大学大学院工学系研究科 情報工学専攻 修士課程を終了し、マッキンゼー・アンド・カンパニー 東京事務所入社(82年退社)会社経営者、日本医科大学大学院医療管理学専攻研究生などを経て、  
95年 財団法人医療経済研究機構研究主幹兼研究部長  
96年 東北大学医学部病院管理学教室助教授(98年辞任)  
現在 ハーバード大学公衆衛生大学院リサーチフェロー  
医学博士Ph.D.、情報工学修士M.E.

著者はハーバード大学留学を通じて、巨大化し急変していく米国のマネジドケアの実態にじかに触れながらその現象の研究を進め、そこから我が国医療保険制度改革への示唆、意味合いを引き出すことに専念している。

本書はこうした研究の成果であり、日本語で書かれたマネジドケアに関する最初の研究報告である。

## [ 対論 ] 21 世紀の社会保障

著者：水野肇

内容：1 医療改革：日本の選択  
2 医療・福祉・社会保障  
3 高齢化時代の医学と医療  
4 医療の政治経済学

発行所：株式会社日本評論社

東京都豊島区南大塚3-12-4 〒170-7484

電話(03)3987-8621

定価：本体2,000円+税

対論相手

梶田	西村	佐々木	加藤	森岡	坪井	山口	高久	多田	羽田	宮島	塩野	浅田	川淵	幸田	小泉
忠彦	周三	毅	寛	茂夫	栄孝	昇	史	羅	信	洋	谷	敏	孝一	正	純一郎

著者  
略歴

大阪外大卒。山陽新聞記者時代に『ガン・シリーズ』で日本新聞協会賞受賞。NHK解説委員。社会保障審議会委員などを経て、現在、医療審議会、医療保険福祉審議会各委員を務める。

21世紀の日本の医療保険制度改革に向けて、今、何をすることが求められているのか? 「医療をめぐる問題で一番のネックは“こういう医療と医療保険制度をつくるんだ”ということがいまひとつ明確になっていないことである」とする著者が、政治・行政・経済まで含めたこの分野に関連する権威16人と巾広く行った討論である。

# 1999年度日本、海外におけるヘルスリサーチ 関連学会・研究会開催案内

1999年4月～12月に開催される国内・外の関連学会並びに研究会をご紹介します。  
尚、各学会に参加ご希望の方は、それぞれの連絡先に直接お問い合わせ下さい。

## 1999年国内学会開催予定

4月	学会名(会場)	会長・代表者	連絡先
2日 ～4日	日本医学会総会(第25回) (東京国際フォーラム・東京都)	高久 史麿 (自治医大)	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東大医学部 Tel.03-5800-5524 / Fax.03-5689-8098
5日 ～7日	日本寄生虫学会(第68回) (自治医科大学地域医療情報研修センター・ 栃木県)	石井 明 (自治医大)	〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1 自治医大医動物 Tel.0285-58-7339
5日 ～8日	日本放射線技術学会(第55回) (東京ファッションタウンホール・東京都)	川村 義彦 (日医大千葉北 総病院)	〒101-0047 東京都千代田区内神田1-7-6 北大手町ビル4F 日本ラジオロジー振興協会 Tel.03-5281-0005
6日 ～8日	日本医学放射線学会(第58回) (東京国際展示場(東京ビッグサイト)・ 東京都)	平松 京一 (慶大)	〒160-8585 東京都新宿区信濃町35 慶大医学部放射線科 Tel.03-3353-1211 (2465) / Fax.03-5269-6732
9日 ～11日	日本皮膚科学会(第98回) (東京国際フォーラム・東京都)	新村 真人 (慈大)	〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 慈大皮膚科 Tel.03-3433-1111 (3341) / Fax.03-5401-0125
10日 ～13日	日本産科婦人科学会(第51回) (ホテルニューオータニ・東京都)	佐藤 和雄 (日大)	〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1 日大医学部産婦人科 Tel.03-3972-8111 (2522) / Fax.03-3972-9612
12日 ～15日	日本泌尿器科学会(第87回) (大阪城ホール・大阪市)	栗田 孝 (近大)	〒589-8511 大阪狭山市大野東377-2 近大医学部泌尿器科 Tel.0723-66-1460 / Fax.0723-65-6273
15日 ～16日	日本結核病学会(第74回) (栃木県総合文化センター・宇都宮市)	北村 論 (自治医大)	〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1 自治医大呼吸器内科 Tel.0285-58-7350 / Fax.0285-44-3586
17日	Quality of Life 研究会(第35回) (三和化学メディカルホール・大阪市)	足立 綱三郎 (神戸女学院大学)	〒565-8565 吹田市藤白台5-7-1 国立循環器C 萬代 隆 Tel.06-6833-5012 / Fax.06-6872-7486
19日 ～21日	日本血液学会(第61回) (東京国際フォーラム・東京都)	溝口 秀昭 (女医大)	〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 女医大血液内科 Tel.03-5269-7329 / Fax.03-5379-3376
19日 ～20日	日本脳卒中の外科学会(第28回) (パシフィコ横浜(横浜国際平和会議場)・ 横浜市)	山本 勇夫 (横浜市大)	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市医学部脳神経外科 Tel.045-787-2663
21日 ～23日	日本形成外科学会(第42回) (シーホークホテル&リゾート・福岡市)	田井良明 (久留米大)	〒830-0011 久留米市旭町67 久留米大医学部形成外科 Tel.0942-31-7569 / Fax.0942-34-0834
21日 ～22日	日本脳卒中学会(第24回) (パシフィコ横浜・横浜市)	篠原 幸人 (東海大)	〒259-1100 伊勢原市望星台 東海大医学部神経内科 Tel.0463-93-1121 / Fax.0463-94-8764
22日 ～23日	日本歯周病学会(第42回) (大阪国際交流センター・大阪市)	今井 久夫 (大阪歯大)	〒540-0008 大阪市中央区大手前1-5-17 大阪歯大歯学部附属病院歯周病学 Tel.06-6910-1086 / Fax.06-6910-1056
22日 ～24日	日本消化器病学会(第85回) (長崎ブリックホール・長崎市)	矢野 右人 (国立長崎中央病院)	〒856-0835 大村市久原2-1001 国立長崎中央病院 Tel.0957-52-3121 (372)
22日	小児運動スポーツ研究会(第6回) (総評会館・東京都)	新村 一郎 (新村病院)	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市医学部小児科 Tel.045-787-2671 / Fax.045-784-3615
23日 ～25日	日本小児科学会(第102回) (東京国際フォーラム・東京都)	柳澤 正義 (東大)	〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東大医学部附属病院小児科 Tel.03-5800-8821 / Fax.03-5800-8822
30日 ～5月1日	日本臨床モニター学会(第10回) (東京国際展示場(東京ビッグサイト)・ 東京都)	戸川 達男 (医歯大・医材研)	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10 医歯大・医用医用器材研究所計測機器学 Tel.03-5280-8092 / Fax.03-5280-8094

5月	学会名(会場)	会長・代表者	連絡先
6日 -8日	日本産業衛生学会(第72回) (東京国際展示場(東京ビッグサイト)・東京都)		〒214-8585 川崎市多摩区長尾6-21-1 産業医学研 Tel.044-865-6111
10日 -12日	日本消化器内視鏡学会(第57回) (金沢市文化ホール・金沢市)	鷹伊 正義 (金大がん研)	〒920-8044 金沢市米泉町4-86 金大がん研外科 Tel.076-226-2517 / Fax.076-226-2539
12日 -13日	日本保険医学会(第95回) (よみうりホール・東京都)	薙野 久法 (明治生命)	〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル3F 生命保険協会調査部 Tel.03-3286-2734
12日 -14日	日本輸血学会(第47回) (仙台国際センター・仙台市)	田村 眞 (東北大)	〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学医学部附属病院輸血部 Tel.022-717-7470 / Fax.022-233-2316
13日 -15日	日本アレルギー学会(第11回) (ザ・リッツカールトン大阪・大阪市)	佐々木 聖 (阪医大)	〒569-8686 高槻市大学町2-7 阪医大小児科免疫アレルギー研 Tel.0726-83-1221 / Fax.0726-84-6554
13日 -14日	日本呼吸器外科学会(第16回) (京王プラザホテル・東京都)	新田 澄郎 (女医大)	〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 女医大第一外科・呼吸器外科 Tel.03-5269-7331 / Fax.03-5269-7331
13日 -15日	日本手の外科学会(第42回) (東京国際フォーラム・東京都)	藤巻 悦夫 (昭大)	〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8 昭大医学部整形外科 Tel.03-3784-8543
15日 -16日	日本人間工学会(第40回) (大同工業大学・名古屋市)	高田 和之 (大工大)	〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名大大学院多元数理 Tel.052-789-5572 / Fax.052-789-5572
19日 -21日	日本肝胆膵外科学会(第11回) (ホテルクレメント徳島・徳島市)	田代 征記 (徳大)	〒770-0042 徳島市蔵本町3-18-15 徳大医学部第一外科 Tel.0886-33-7139 / Fax.0886-31-9698
20日 -21日	日本血管外科学会(第27回) (大宮ソニックシティ・大宮市)	田中 勤 (防衛医大)	〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医大第2外科 Tel.042-995-1650 / Fax.042-996-5206
20日 -22日	日本耳鼻咽喉科学会(第100回) (仙台国際センター・仙台市)	高坂 知節 (東北大)	〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学医学部耳鼻咽喉科 Tel.022-717-7304 / Fax.022-717-7307
20日 -21日	日本胆道外科研究会(第28回) (ホテルクレメント徳島・徳島市)	田代 征記 (徳大)	〒770-0042 徳島市蔵本町3-18-15 徳大医学部第一外科 Tel.0886-33-7139 / Fax.0886-31-9698
20日 -21日	日本熱傷学会(第25回) (長崎ブリックホール・長崎市)	藤井 徹 (長大)	〒852-8501 長崎市坂本1-7-1 長大医学部形成外科 Tel.095-849-7327 / Fax.095-849-7330
20日 -22日	日本リハビリテーション医学会 (第36回) (鹿児島市民文化ホール・鹿児島市)	田中 信行 (鹿大)	〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿大医学部リハビリテーション医学 Tel.099-275-5339 / Fax.099-275-1273
22日 -23日	日本理学療法学会(第48回) (尼崎市総合文化センター・尼崎市)	須髯 孝義 (大和高田市立病院)	〒660-0828 尼崎市東大物町1-1-1 尼崎病院リハビリテーション科 Tel.06-6482-1521(259) / Fax.0729-95-0482
22日 -23日	EBM・臨床疫学ワークショップ(第4回) (東京大学医学部総合中央館3階333号室・東京都)	福原 俊一 (東大)	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院医学系研究科・ 医学部国際交流室内「EBM・臨床疫学ワークショップ」 事務局 Fax.03-5803-1817
26日 -28日	日本麻酔学会(第46回) (北海道厚生年金会館・札幌市)	並木 昭義 (札幌医大)	〒060-8543 札幌市中央区南1条西16 札幌大麻酔学 Tel.011-640-8353 / Fax.011-640-8357
28日 -29日	日本整形外科スポーツ医学会 (第25回) (神戸国際会議場・神戸市)	圓尾 宗司 (兵庫医大)	〒663-8501 西宮市武庫川町1-1 兵庫医大整形外科 Tel.0798-45-6451 / Fax.0798-45-6453
31日 -6月2日	日本内分泌学会(第72回) (パシフィコ横浜(横浜国際平和会議場)・横浜市)	斎藤 寿一 (自治医大)	〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1 自治医大内分泌代謝科 Tel.0285-58-7355 / Fax.0285-44-8143

テーマ:「EBMの実際」- EBMをいかに医療実践に活用するか?

内容・方法: EBMに関する基礎知識とスキル、Evidenceを探す・評価する・適用する

対象: 研究のデザインや結果の分析法などの教育を受けたことのない者を優先的に受ける。

使用言語: 英語(日本語の簡単な説明有り)

参加費: 2万円

定員: 約30名

申込方法: 氏名と連絡先を明記し、「ワークショップ参加申込書希望」と書き添えて事務局あてFAXのこと。

6月	学会名(会場)	会長・代表者	連絡先
2日 ~4日	日本小児外科学会(第36回) (仙台国際センター・仙台市)	大井 龍司 (東北大)	〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学医学系研究科小児医学 Tel.022-717-7237 / Fax.022-717-7240
3日 ~4日	日本心身医学会(第40回) (ホテルニューキャッスル・弘前市)	佐々木 大輔 (弘前大)	〒036-8560 弘前市文京町1 弘前大保健管理センター Tel.0172-39-3126 / Fax.0172-39-3130
3日 ~5日	日本リウマチ学会(第43回) (ロイトン札幌・札幌市)	吉木 敬 (北大)	〒060-8638 札幌市北区北15条西7 北大医学部病理学第一 Tel.011-706-5050 / Fax.011-706-7825
4日 ~5日	日本社会福祉士会・ 社会福祉士学会(第7回) (名古屋国際会議場・名古屋市)	杉本 敏夫	〒460-0012 名古屋市中区千代田区3-27-11 日本福祉大学事業部 気付 Tel.052-339-0202
5日 ~6日	日本交通医学会(第53回) (国立京都国際会館・京都市)	川井 啓市 (大阪鉄道病院)	〒545-0002 大阪府阿倍野区天王寺南1-3-5 大阪鉄道病院総務課 Tel.06-6628-2221 / Fax.06-6628-4707
10日 ~11日	日本小児救急医学会(第13回) (メルパルク沖縄(沖縄郵便貯金会館)・ 那覇市)	安次嶺 馨 (沖縄県立中部病院)	〒904-2293 具志川市字宮里208-3 沖縄県立中部病院 Tel.098-973-4111
11日 ~12日	日本健康教育学会(第8回) (大阪国際交流センター・大阪市)	藤岡 千秋	〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 大阪教育大学健康科学 Tel.0729-78-3607 / Fax.0729-78-3607
11日 ~12日	日本医療情報学会 (大阪大学コンベンションセンター・吹田市)	山本 和子 (島根医大)	〒565-0871 吹田市山田丘2-2 阪大医学部附属病院医療情報部 Tel.06-6879-5111
12日 ~13日	日本睡眠学会(第24回) (広島大学東千田キャンパス・広島市)	堀 忠雄 (広大・ 総合科学部)	〒724-8521 東広島市鏡山1-7-1 広大総合科学部人間行動研究 Tel.0824-24-6582 / Fax.0824-24-0759
16日 ~18日	日本老年医学会(第41回) (国立京都国際会館・京都市)	北 徹 (京大)	〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町54 京大医学研究科成人・老年病態学 Tel.075-751-3460 / Fax.075-771-9784
16日 ~18日	日本老年学会(第21回) (国立京都国際会館・京都市)	亀山 正邦 (住友病院)	〒530-0005 大阪市北区中之島5-2-2 住友病院院長室 Tel.06-6443-1261 / Fax.06-6444-3975
17日 ~18日	日本頭頸部腫瘍学会(第23回) (東京ベイホテル東急・浦安市)	波利井 清紀 (東大)	〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-45 東大医学部形成学科学 Tel.03-3813-6111
19日 ~20日	日本保健医療行動科学学会(第14回) (東京女子医科大学・東京都)	長谷川 浩 (東海大)	〒272-0021 市川市八幡2-6-18-401 保健行動科学学会 Tel.047-332-0726 / Fax.047-332-5631
19日 ~20日	日本地域看護学会(第2回) (山梨医科大学・山梨県)	平山 朝子 (千大・看護)	〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千大看護学部地域看護学教育研究分 Tel.043-226-2437 / Fax.043-226-2438
23日 ~25日	日本胃癌学会(第71回) (東京国際展示場(東京ビッグサイト)・ 東京都)	中島 聰雄 (癌研究会)	〒170-8455 東京都豊島区上池袋1-37-1 癌研究会附属病院外科 Tel.03-3918-0111
24日 ~25日	日本肝臓学会(第35回) (東京国際フォーラム・東京都)	藤原 研司 (埼玉医大)	〒350-0495 埼玉県人間部毛呂山町毛呂本郷38-2 埼玉医大第3内科 Tel.0492-76-1195 / Fax.0492-94-8404
24日 ~25日	日本動脈硬化学会(第31回) (宮崎シーガイア・コンベンションセンター 「サミット」・宮崎市)	住吉 昭信 (宮崎医大)	〒889-1601 宮崎県宮崎市清武町大字木原5200 宮崎医大病理学第一 Tel.0985-85-2810 / Fax.0985-85-7610
25日 ~27日	日本透析医学会(第44回) (パシフィコ横浜(横浜国際平和会議場)・ 横浜市)	黒川 清 (東海大)	〒259-1193 神奈川県伊勢原市下粕屋143 東海大医学部 腎・代謝内科 Tel.0463-93-7950 / Fax.0463-93-7640
26日 ~28日	日本腎臓学会(第42回) (パシフィコ横浜(横浜国際平和会議場)・ 横浜市)	堺 秀人 (東海大)	〒259-1193 伊勢原市望星台 東海大医学部内科学第七 Tel.0463-96-2863 / Fax.0463-96-2864
26日 ~27日	日本プライマリ・ケア学会 (第22回) (つくば国際会議場・茨城県)	土屋 滋 (筑波大)	〒305-8575 つくば市天王台1-1-1 筑波大社会医学系 Tel.0298-53-3496 / Fax.0298-53-3496
26日	看護情報システム研究会(第15回) (砂防会館(シェーンパッハ砂防)・東京都)	田間 恵實子 (阪大)	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル 医療情報システム開発C Tel.03-3586-6391 / Fax.03-3505-1996
29日 ~30日	日本老年精神医学会(第14回) (日本都市センター・東京都)	本間 昭 (都老人研)	〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2 都老人研精神医学部門 Tel.03-3964-3241 (3104)

6月	学会名(会場)	会長・代表者	連絡先
2日 ~4日	日本小児外科学会(第36回) (仙台国際センター・仙台市)	大井 龍司 (東北大)	〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学医学系研究科小児医学 Tel.022-717-7237 / Fax.022-717-7240
3日 ~4日	日本心身医学会(第40回) (ホテルニューキャッスル・弘前市)	佐々木 大輔 (弘前大)	〒036-8560 弘前市文京町1 弘前大保健管理センター Tel.0172-39-3126 / Fax.0172-39-3130
3日 ~5日	日本リウマチ学会(第43回) (ロイトン札幌・札幌市)	吉木 敬 (北大)	〒060-8638 札幌市北区北15条西7 北大医学部病理学第一 Tel.011-706-5050 / Fax.011-706-7825
4日 ~5日	日本社会福祉士会・ 社会福祉士学会(第7回) (名古屋国際会議場・名古屋市)	杉本 敏夫	〒460-0012 名古屋市中区千代田区3-27-11 日本福祉大学事業部 気付 Tel.052-339-0202
5日 ~6日	日本交通医学会(第53回) (国立京都国際会館・京都市)	川井 啓市 (大阪鉄道病院)	〒545-0002 大阪市阿倍野区天王寺南1-3-5 大阪鉄道病院総務課 Tel.06-6628-2221 / Fax.06-6628-4707
10日 ~11日	日本小児救急医学会(第13回) (メルパルク沖縄(沖縄郵便貯金会館)・ 那覇市)	安次嶺 響 (沖縄県立中部病院)	〒904-2293 具志川市字宮里208-3 沖縄県立中部病院 Tel.098-973-4111
11日 ~12日	日本健康教育学会(第8回) (大阪国際交流センター・大阪市)	藤岡 千秋	〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 大阪教育大学健康科学 Tel.0729-78-3607 / Fax.0729-78-3607
11日 ~12日	日本医療情報学会 (大阪大学コンベンションセンター・吹田市)	山本 和子 (島根医大)	〒565-0871 吹田市山田丘2-2 阪大医学部附属病院医療情報部 Tel.06-6879-5111
12日 ~13日	日本睡眠学会(第24回) (広島大学東千田キャンパス・広島市)	堀 志雄 (広大・ 総合科学部)	〒724-8521 東広島市鏡山1-7-1 広大総合科学部人間行動研究 Tel.0824-24-6582 / Fax.0824-24-0759
16日 ~18日	日本老年医学会(第41回) (国立京都国際会館・京都市)	北 徹 (京大)	〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町54 京大医学研究科成人・老年病態学 Tel.075-751-3460 / Fax.075-771-9784
16日 ~18日	日本老年学会(第21回) (国立京都国際会館・京都市)	亀山 正邦 (住友病院)	〒530-0005 大阪市北区中之島5-2-2 住友病院院長室 Tel.06-6443-1261 / Fax.06-6444-3975
17日 ~18日	日本頭頸部腫瘍学会(第23回) (東京ベイホテル東急・浦安市)	波利井 清紀 (東大)	〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-45 東大医学部形成学科 Tel.03-3813-6111
19日 ~20日	日本保健医療行動科学会(第14回) (東京女子医科大学・東京都)	長谷川 浩 (東海大)	〒272-0021 市川市八幡2-6-18-401 保健行動科学会 Tel.047-332-0726 / Fax.047-332-5631
19日 ~20日	日本地域看護学会(第2回) (山梨医科大学・山梨県)	平山 朝子 (千大・看護)	〒260-8672 千葉県中央区亥鼻1-8-1 千大看護学部地域看護学教育研究分 Tel.043-226-2437 / Fax.043-226-2438
23日 ~25日	日本胃癌学会(第71回) (東京国際展示場(東京ビッグサイト)・ 東京都)	中島 聰總 (癌研究会)	〒170-8455 東京都豊島区上池袋1-37-1 癌研究会附属病院外科 Tel.03-3918-0111
24日 ~25日	日本肝臓学会(第35回) (東京国際フォーラム・東京都)	藤原 研司 (埼玉医大)	〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38-2 埼玉医大第3内科 Tel.0492-76-1195 / Fax.0492-94-8404
24日 ~25日	日本動脈硬化学会(第31回) (宮崎シーガイア・コンベンションセンター 「サミット」・宮崎市)	住吉 昭信 (宮崎医大)	〒889-1601 宮崎県宮崎郡清武町大字木原5200 宮崎医大病理学第一 Tel.0985-85-2810 / Fax.0985-85-7610
25日 ~27日	日本透析医学会(第44回) (パンフィコ横浜(横浜国際平和会議場)・ 横浜市)	黒川 清 (東海大)	〒259-1193 神奈川県伊勢原市下粕屋143 東海大医学部 腎・代謝内科 Tel.0463-93-7950 / Fax.0463-93-7640
26日 ~28日	日本腎臓学会(第42回) (パンフィコ横浜(横浜国際平和会議場)・ 横浜市)	堺 秀人 (東海大)	〒259-1193 伊勢原市望星台 東海大医学部内科学第七 Tel.0463-96-2863 / Fax.0463-96-2864
26日 ~27日	日本プライマリ・ケア学会 (第22回) (つくば国際会議場・茨城県)	土屋 滋 (筑波大)	〒305-8575 つくば市天王台1-1-1 筑波大社会医学系 Tel.0298-53-3496 / Fax.0298-53-3496
26日	看護情報システム研究会(第15回) (砂防会館(シェーンパッハ砂防)・東京都)	田間 恵實子 (阪大)	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル 医療情報システム開発C Tel.03-3586-6391 / Fax.03-3505-1996
29日 ~30日	日本老年精神医学会(第14回) (日本都市センター・東京都)	本間 昭 (都老人研)	〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2 都老人研精神医学部門 Tel.03-3964-3241 (3104)

10月	学会名(会場)	会長・代表者	連絡先
6日 ~7日	日本災害医学会(第47回) (広島国際会議場・広島市)	盛生 倫夫 (中国労災病院)	〒737-0134 呉市広多賀谷1-5-1 中国労災病院 Tel.0823-72-7171 / Fax.0823-74-0371
9日 ~10日	日本学校保健学会(第46回) (名古屋大学東山キャンパス・名古屋市)	佐藤 祐造 (名大)	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名大総合保健体育科学センター Tel.052-789-3962 / Fax.052-789-3957
9日 ~10日	日本社会福祉学会(第47回) (川崎医療福祉大学・倉敷市)	江草 安彦 (川崎医療福祉大)	〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館501 日本社会福祉学会 Tel.03-3356-7824
12日 ~14日	日本癌治療学会(第37回) (長良川国際会議場・岐阜市)	佐治 重豊 (岐大)	〒500-8705 岐阜市司町40 岐大医学部第2外科 Tel.058-267-2621 / Fax.058-265-9018
14日 ~15日	日本病院管理学会(第37回) (サンルートプラザ東京・浦安市)	池上 直己 (慶大)	〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 慶大医学部医療政策・管理学 Tel.03-3353-1211 (2711) / Fax.03-3225-4828
19日 ~20日	日本看護学会老人看護学会 (第29回) (埼玉県産業文化センター・大宮市)	見藤 隆子 (日本看護協会)	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会学会部 Tel.03-3400-8594
20日 ~22日	日本公衆衛生学会(第58回) (別府コンベンションセンター(ピーコンプラザ)・別府市)	小澤 秀樹 (大分医大)	〒879-5593 大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1-1 大分医大公衆・衛生医学 Tel.097-586-5730
21日 ~23日	日本高血圧学会(第22回) (香川県県民ホール・高松市)	安部 陽一 (香川医大)	〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1 香川医大薬理学 Tel.087-891-2125 / Fax.087-891-2126
23日 ~24日	日本健康心理学会(第12回) (岡山大学教育学部・岡山市)	田中 宏二 (岡大・教育)	〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡大教育学部 Tel.086-251-7721 / Fax.086-251-7726
28日 ~29日	日本健康増進学会(第21回) (福岡市健康づくりセンター「あいけいふ」・福岡市)	西岡 和男 (福岡市健康づくりC)	〒760-0011 香川県高松市浜1町53-27 香川県大的場 健康体育センター全国健康増進施設連絡協議会 Tel.087-822-4917
<b>11月</b>			
10日 ~12日	日本救急医学会(第27回) (京王プラザホテル・東京都)	前川 和彦 (東大)	〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東大医学部附属病院救急医学 Tel.03-3815-5411 (5195) / Fax.03-3814-6446
10日 ~11日	日本病院設備学会 (東京国際会議場(東京ビッグサイト)・東京都)	石福 昭 (早大・大学院)	〒113-0033 東京都文京区本郷1-30-16 本郷春日マンション403 日本病院設備協会 Tel.03-3812-0257 / Fax.03-3812-0257
18日 ~19日	日本看護学会小児看護学会(第29回) (長崎ブリックホール・長崎市)	見藤 隆子 (日本看護協会)	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会学会部 Tel.03-3400-8594
19日 ~20日	日本新生児看護学会(第9回) (岡山衛生会館・岡山市)	河本 与志子 (国立岡山病院)	〒700-0807 岡山市南方2-13-1 国立岡山病院未熟児センター Tel.0862-23-8111 (325)
25日 ~27日	日本医療情報学会・医療情報学連 合大会(第19回) (パシフィコ横浜(横浜国際平和会議場)・横浜市)	佐藤 登志郎 (北里大)	〒228-8555 相模原市北里1-15-1 北里大医療衛生学部医療情報学 Tel.0427-78-9652 / Fax.0427-78-7264
25日 ~26日	日本精神科看護学会「老年期精 神科看護」専門学会(第6回) (松山全日空ホテル・松山市)	櫻井 清 (群馬医療短大)	〒183-0055 東京都府中市府中町1-14-1 朝日生命府中ビル6F 日本精神科看護技術協会 Tel.042-363-6663 / Fax.042-363-6664
未定	日本リハビリテーション看護学 会(第11回) (未定)	落合 芙美子 (済生会本部)	〒359-8555 所沢市並木4-1 国立リハC Tel.0429-95-3100

## 1999年国際学会一覧

		学会名(会場)	連絡先
3月	7日～10日	第48回米国心臓病学会(ACC) (米国・ニューオリンズ)	
5月	19日～22日	第14回米国高血圧学会(ASH) (米国・ニューヨーク)	
6月	11日～14日	第9回欧州高血圧学会 (イタリア・ミラノ)	
	19日～22日	第59回米国糖尿病学会(ADA) (米国・サンディエゴ)	
8月	22日～29日	第16回欧州医療情報会議 (スロベニア・リュブリアナ)	
9月	5日～9日	第4回国際老年病会議 (カナダ・モントリオール)	
	5日～10日	第21回欧州心臓病会議 (スペイン・バルセロナ)	
10月	5日～10日	世界メンタルヘルス学会 (チリ・サンチャゴ)	
	14日～16日	国際心臓学会/国際栄養学会 (インド・ニューデリー)	
11月	3日～6日	第6回ISOQOL学会 (スペイン・バルセロナ)	c/ Aulèstia i Pijoan, 12baixos E-08012 Barcelona, Spain Phone : (+34) 93 415 69 38 Fax : (+34) 93 415 69 04 rct@rct-congresos.com
	7日～10日	第72回米国心臓学会(AHA) (米国・アトランタ)	
	13日～17日	第63回米国リウマチ学会(ACR) (米国・ボストン)	
	19日～23日	第52回米国老年学会 (米国・サンフランシスコ)	

## 2000年国際学会

5月	29日～6月2日	第7回International Conference on Systems Science in Health Care (ICSSHC) (ハンガリー・ブタペスト)	
----	----------	---	--

International Society for Quality of Life Research (ISOQOL) の第6回学会で “ Measurement, Valuation and Interpretation of Changes in Health-Related Quality of Life : Time for a Critical Review ” のテーマで行われます。QOL研究の「最先端」を学ぶ上で、又、この分野の研究者との親交を深める上で非常に有意義な学会となることが見込まれます。

International Conference on Systems Science in Health Care (ICSSHC)とは、医療システム科学に関する国際会議です。詳しいプログラムの内容につきましては、この大会のプログラム委員である東京経済大学・経営学部榎橋啓世教授宛に直接FAX(078-854-1520)でお問合せ下さい。

## ( 連絡先 )

印 三喜トラベルサービス  
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-20-9 巣鴨ファーストビル7F Tel.03-3947-1511 / Fax.03-3947-1529  
印 アイビ・プロテック  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-6 京橋弥生ビル4F Tel.03-3564-1471 / Fax.03-3564-2301  
無印 どちらでも可

お知らせ

## 第6回ヘルスリサーチフォーラム自由演題を募集します！

ヘルスリサーチフォーラムで実施しております自由演題の発表は、毎回非常に高い評価をいただいております。

本年度のフォーラム(11月6日(土)開催)においても、演題を幅広い分野から募集する予定です。近々に詳細について発表致します。尚、具体的な応募内容・応募方法等は、別途配布する案内書をご覧いただくか、または当財団事務局(下記)まで直接お問い合わせ下さい。